

アンドレ・レイの複雑図形に基づく LPAD 事例報告：

by Rabbi Rafi Feuerstein

ラフィ・フォイヤーシュタイン

Dina (仮名) 8歳。未熟児で生まれる。Dina の家族がフォイヤーシュタイン教授のもとに持参した知能テストよれば、彼女の抽象思考能力はほぼ正常。しかし、視知覚に重度の障害が見られ、その知覚機能は修正不能であり、普通学級での教育は不可能であるという結論が出されていた。

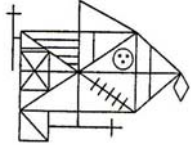
ICELPで行ったダイナミックなLPADでもほぼ同様の姿が見られたが、LPADの分析、解釈によれば、彼女の知覚上の困難は、『状態』であり固定的なものではないというものであった。

彼女の知覚障害は、『入力』『精密化』『出力』という情報処理の3つの段階のうち、『入力段階』の問題でしかなく、『精密化』の段階では問題がない、と解釈された。

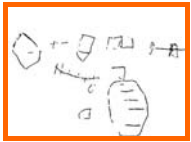
白紙の状態で行う『予備テスト』の後、課題が要求する作業について細かく丁寧な『媒介指導』を受け、その後で受けた『テスト』では、ICELPのスタッフをも驚かせるほどのよい視知覚反応を示した。論理的な力が知覚上の欠陥を補うことを重視する教育環境に彼女を置くことが推奨される、との結論が出された。

以下はディナの行ったアンドレ・レイの複雑図形に基づく LPAD のプロセスと結果である。

Rey's Complex Figure Test



左のモデルを見て、同じ絵を描くよう指示される。

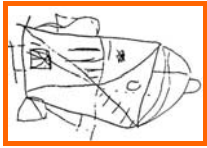


① コピー画 その1

② 記憶に基づく再生画 その1

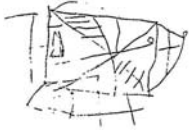
次に記憶した図を描くよう求められた。
左の絵は、① のコピー画からは予想できないほどの内容を持つ。絵は枠内に収められ、内側の細部も外側の細部も再生されている。

媒介的介入



③ コピー画 その2

媒介的学習段階で、メタ認知のプロセスで知覚的な不利を補うことを学習し左の絵を得た。



④ 記憶に基づく再生画 その2

最後に、記憶に基づいて描いた。